

私達は日本政府に核兵器禁止条約に調印し、批准することを求めます



岡山県原水協通信

2017年 12月7日 No430
原水爆禁止岡山県協議会
700-0981 岡山市北区西島田町4-25
TEL086-244-4526(F)805-6172
kenmin@po5.oninet.ne.jp

被爆者のねがいに政府はこたえるべきです

12月度（第98回） 6・9行動で市民に訴え

岡山県原水協は12月6日、12月度（98回目）の6・9行動を行いました。行動には堅ろう会議、県人権連、中尾代表委員、事務局の4人が参加。「日本政府は被爆者のねがいに背を向け核兵器禁止条約の批准を拒否しています。唯一の戦争被爆国にふさわしく核兵器禁止条約を批准すべきです」「被爆者の訴える署名にご協力を」と平井事務局長が訴えました。昼休みの短時間の行動でしたが15筆の署名が寄せられました。



「日本政府は核兵器禁止条約の批准を」

奈義町議会 本会議で満場一致採択

県原水協がキャラバン行動でお願いしていた日本政府への意見書上申を求める請願が12月6日の町議会本会議で満場一致で採択されました。（森藤議員からの情報です）

倉敷革新懇・講演会
被爆体験を伝えたい
～ノーモアヒロシマ・
語り部 豊田 富士子



倉敷革新懇・講演会ひらく

豊田さん 被爆証言

倉敷革新懇は12月2日、倉敷福祉プラザで講演会を開きました。この日は「被爆体験を伝えたい」～ノーモアヒロシマ 核兵器～と題して倉敷市内在住の豊田富士子さんの被爆体験をお聞きました。

豊田さんは15歳の時、広島電鉄家政女学



校女子寮食堂で朝食中に被爆しました。爆心地から2Kmの地点でした。建物の下敷きになりましたが無事でした。その日から8月末まで避難所生活をしながら級友2人で市内を女子寮生を探し歩き、避難所では被災者のお世話に明け暮れ傷ついた体のウジの処理の悲惨な状況を話されました。

「お母さん、胸が苦しいよ～苦しいよ～」と言って亡くなった級友の最期を涙ながらに話してくださいました。参加した30人は、被爆直後の広島市の街の様子をそれぞれ思い起こし、戦争の悲惨さを改めて痛感し核兵器の廃絶を決意しました。